

富翁（北川本家）

北川本家は、少なくとも 1657 年から上質の日本酒を醸造してきた。創業者の鮎屋四郎兵衛（生没年不詳）は、重要な商業水路である宇治川を經由して伏見に来た、商人や旅行者に宿を提供する宿屋だった。彼の宿屋は伏見内陸港の中心にある豊後橋（現在の観月橋）のそばにあった。

北川本家酒造は、江戸時代の前半（1603～1867 年）の記録から、少なくとも 1657 年から伏見酒を製造している。創業者の鮎屋四郎兵衛（ふなやしるべえ）（生没年不詳）は、重要な商業水路である宇治川を經由して来た商人や旅行者に宿泊施設を提供していた宿屋だった。彼の宿屋は、伏見の内陸港の中心にある豊後橋（現在の観月橋）のそばにあった。

柔らかい伏見の湧き水を使って醸造された四郎兵衛の日本酒は、下流の大阪で有名になった。現在、14 代目の社長が経営している同社は、伝統的は醸造方法と現代の技術を組み合わせ、地元で開発された京の琴日本酒酵母や高品質の山田錦米、および 1657 年以来使用されているものと同じ純水を使用している、

1983 年以来、北川本家の旗艦ブランドである純米吟醸酒「富翁」は、日本酒賞で金賞を 18 年間連続で受賞している。「富翁」という名前は、中国文学の四書五經の一文に由来し、「心の豊かな人は最後まで幸せな人生を楽しむ」という意味を持つ。

北川本家は、1 世紀以上にわたり、福井県の糠地区の名杜氏と密接な関係を築き、その多くは、最近になって蔵元が日本酒を作るために一年中雇用するようになるまで、季節労働者として伏見に来ていた。